

## 兵庫県医師会医療支援チーム（第12陣）「宮城県災害支援現地報告」

理事 村上 眞

医師5名（内科(1)、小児科(1)、産婦人科(1)、眼科(2)）、看護師3名（住吉中には、看護協会派遣の2～4名が常駐、4/16(土)は石巻市民病院より2名が石巻中に派遣されてきた）、薬剤師3名、事務員3名にて石巻中、住吉中、山下小、図書館、公民館の5ヶ所の避難者、計1,037名の診療（外来、巡回）、及び健康管理に従事。外来受診総数は100人/日以下となり、漸減傾向、特記すべき感染症の発生も認めず。14日(木)より、行政からの被災証明の発行が開始され、また、20日(水)よりの学校再開にむけて、避難所の再編成（石巻中、住吉中、山下小の合計820人が556人に減少、山下小は閉鎖）のヒアリングが15日(金)より始まり、仮設住宅の建設が遅れていることもあり、混乱が認められた。石巻市内の避難者総数を5,800人から3,800人に減らし、石巻市周辺に短期間に移動させるため、混乱は必発であり、診療範囲の拡大も余儀なくされ、今後の被災地診療の課題となる。また一部の避難所には、看護協会からの派遣看護師が常駐していたが、当日の本部指令により、突然の撤退が始まり、夜間暗所となる体育館での転倒事故が、ほぼ毎夜出現している現状を考えると、常駐のボランティアの不安感が強くなっていることもあり、夜間みの地元看護師の常駐等の対策が望まれる。また現地の医療機関の復興は、徐々ではあるが確実に進んでいるので、今後は現地医療機関との連携を図り、段階的な派遣チームの撤退が考慮される段階に入っていると思われる。